

日韓共同理工系学部留学生プログラム報告 (2008年4月～2009年3月)

副島 健治

1 はじめに

1998年の日韓首脳会議における「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の構築の合意に基づき、具体的な行動計画として「日韓共同理工系学部留学生事業」が立ち上げられた。この事業は韓国で選抜された高校卒業生を留学生として日本の国立大学の理工系学部が受け入れるプログラムである。

1999年に第一期生の募集が開始された。富山大学ではこれまで、のべ7人を受け入れてきた。本事業によって配置があった学生(以下、「日韓生」とする)を本学に受け入れた年度は、2001年度(2期生4人)、2003年度(4期生1人)、2004年度(5期生1人)、2006年度(7期生1人)であった。

2 2008年度の本事業による富山大学への学生配置について

2008年度の富山大学の理・工学部の受け入れ可能数は各学科の合計人数で16人であったが、残念ながら2008年度の日韓生の配置はなかった。

3 富山大学配置の日韓生の様子

2期生はすでに卒業し大学院を経て、現在は日本あるいは韓国で社会人として活躍している。4期生は2007年3月に学部を卒業し本学の大学院に在学しているが、2008年12月に帰国後、兵役入隊した。そのことによる約2年間の研究の中断と将来の就職に対する不安を抱えている。また、5期生も順調に学業を修め、進学希望先である大学院に合格した。現在の本プログラムの学部在籍者は7期生1人であり、富山大学の工学部の学生として勉学に励んでいる。

4 日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング

4.1 構成員

日韓共同理工系学部留学生事業の本学におけるプログラムを円滑に遂行するための準備などを行う「日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討ワーキング」(以下「日韓WG」とする)が2001年4月に立ち上げられ、若干のメンバーの交代を経て現在に至っている。2008年度のメンバーは石川義和(理学部、日韓WGの長)、宮武滝太(工学部)、加藤扶久美(留学生センター)、副島健治(留学生センター)、飯野るみ子(学生支援グループ留学支援チーム)の5人で構成され、副島がコーディネーターを務めている。

4.2 日韓WGのミーティング

2008年度は以下のように、日韓WGのミーティングが4回持たれた。

○第19回日韓WGミーティング 2008年5月26日(月) 9:30-10:20(場所：留学生センター長室)

参加者：日韓WGメンバー

[報告事項]

- ▶日韓プログラム学部在籍生(5期生、7期生)の状況報告
- ▶本学大学院に進学した4期生のその後の状況について

[審議事項]

- ▶日韓共同理工系学部留学生事業協議会(於：横浜国立大学)参加について
- ▶「平成20年度日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア」(以下、推進フェアとする)への参加について

- ▶ 推進フェア参加のための準備について
- 第20回日韓WGミーティング 2008年6月17日(火) 15:00-17:00 (場所：留学生センター長室)
 - 参加者：日韓WGメンバーおよび推進フェアへの参加予定者
 - [報告事項]
 - ▶ 推進フェアへの参加者決定の報告
 - ▶ 日韓共同理工系学部留学生事業協議会(横浜国立大学主催)参加者決定の報告
 - [審議事項]
 - ▶ 日韓共同理工系学部留学生事業の本学の「受入れ可能数および予備教育の実施方法」(文科省調査) 回答確認
 - ▶ 推進フェアへの取り組みについて
- 第21回日韓WGミーティング 2008年7月8日(火) 15:00-16:30 (場所：留学生センター長室)
 - 参加者：日韓WGメンバーおよび推進フェアへの参加予定者
 - [報告事項]
 - ▶ 推進フェアへの参加者一部変更について
 - ▶ 新潟韓国教育院の院長の富山訪問の報告
 - [審議事項]
 - ▶ 「日韓プログラム推進フェア・アンケート」への回答について
 - ▶ 推進フェアへの取り組みについて
 - ▶ 富山大学、理学部・工学部の「案内」(韓国語版)について
- 第22回日韓WGミーティング 2009年2月2日(月) 15:00-16:30 (場所：留学生センター長室)
 - 参加者：日韓WGメンバー
 - [報告事項]
 - ▶ 2008年度推進フェアへの参加報告
 - ▶ 2008年度の活動の総括
 - ▶ 2009年度の日韓生配置の見通し(文科省からの照会)について
 - ▶ 2009年度の事業の見通しについて
 - [審議事項]
 - ▶ 2009年度の推進フェアへの取り組みについて
 - ▶ 日韓生の配置があった場合の予備教育について

4.3 その他の活動

- 富山大学理学部・工学部PRのための調査 [8月7日(木) 11:30-12:30]

後述の2008年度の推進フェアへの出発に先立っては、推進フェア参加者と日韓WGのメンバーの一部で富山大学オープンキャンパス(工学部)を見学し、富山大学の理工系学部をアピールする材料として「富山大学に惹き付けるもの」を調査した。この活動の成果は推進フェア会場における富山大学ブースのディスプレイに生かされた。
- 推進フェア直前最終打ち合わせ [8月25日(月) 11:00-12:00]

工学部の篠原研究室において、推進フェアへの参加者と日韓WGのメンバーの一部で、推進フェア出発直前の最終打ち合わせを行った。
- 推進フェア報告会 [2008年9月9日(火) 16:30-17:30]

推進フェアを終えて帰国した後、推進フェア参加者と日韓WGによる学内向けの「報告会」を開催した(場所：共通教育棟201教室)。

5 平成20年度日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

韓国側のパンフレットには「2008年度日本大学入学志願説明会」となっている。本事業の第10期生筆記試験合格者150人と保護者およびその関係者を対象として、下記の日時・場所で開催された。日本から36の国立大学が参加した(資料展示のみの7大学を含む)。

日時：2008年8月30日(土) 9:00～17:00

場所：国立国際教育院(旧名称：国際教育振興院)(所在地：韓国Seoul特別市鐘路区東崇洞181)

主管：韓国国立国際教育院，日本国文部科学省，日本大学連合会

本学からは篠原寛明(理工学研究部)，小竹 香(工学系支援グループ)，副島健治(留学生センター)の3人が参加し，富山大学経済学部での交換留学を終えたばかりの金^{キム}徳均君(江原大学校経済学部貿易学科4年)もボランティアで手伝いに駆けつけてくれた。

推進フェアの日程としては，午前中は全体に対する説明会が講堂で行われ，午後は本事業の第10期採用予定者を対象として各参加大学のブースにおいて通訳を介して説明が行われた。本学のブースへは10人の訪問があった。

6 おわりに

この事業における日本の国立大学への日韓生の配置は，日本留学希望生徒が「志望調査」でどの大学を望んだかによりほぼ決定される。したがって受け入れようとする日本の国立大学は，自大学が留学希望者の希望大学として選ばれるように努力することが求められる。これまで，富山大学として本事業による韓国人留学生が配置されるように努力してきたが，実際には配置学生数は伸びなやんでいると言わざるを得ない。

本事業は10年計画で開始されたプログラムである。しかし，正式な連絡を受けてはいないものの，これからも継続することが決定されたようである。これについては2009年度の全国協議会で明らかにされると思われる。

今後は，(1)日韓WGの位置づけを本学内の組織としてより明確にし，(2)国際戦略の観点から富山大学の将来像を考える上で，「日韓共同理工系学部留学生事業」を視野に入れ，さらに積極的に取り組んでいくことが望まれる。